

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

佐賀県 嬉野市

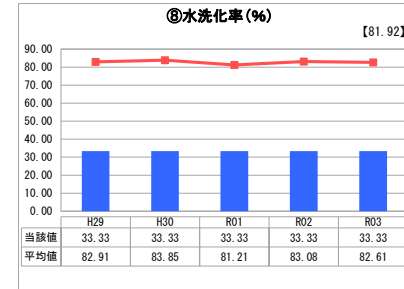
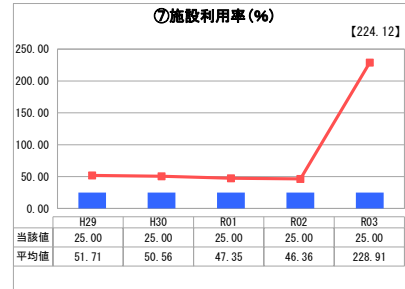
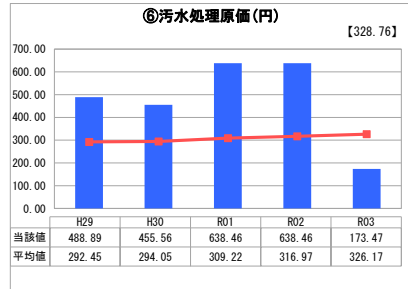
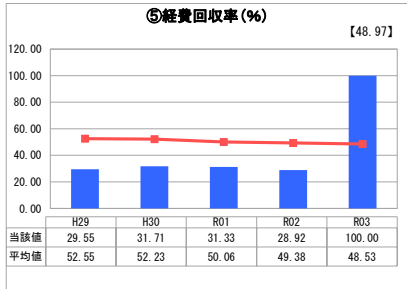
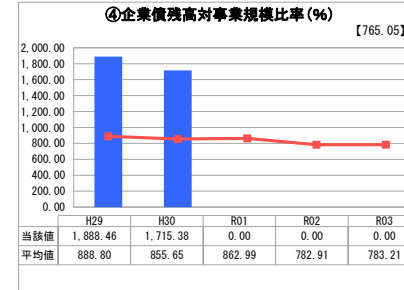
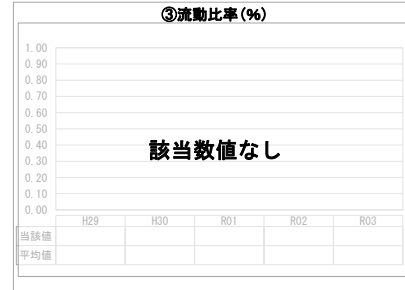
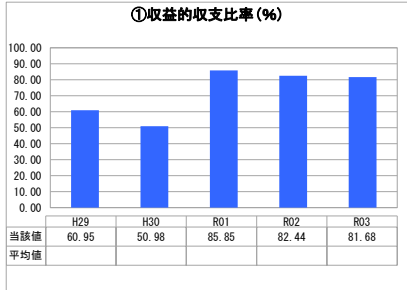
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.02	100.00	2,970

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
25,323	126.41	200.32
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6	0.01	600.00

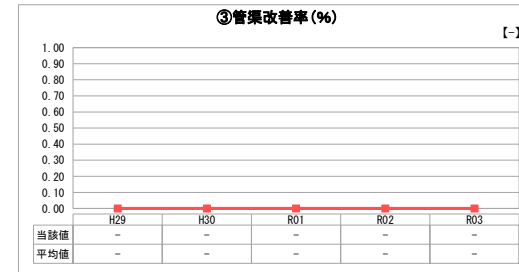
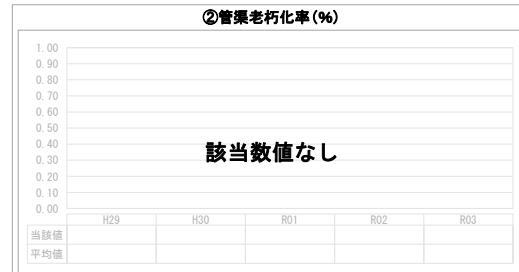
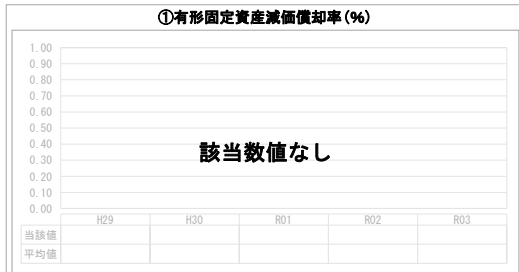
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

当市の特定地域生活排水処理事業については、公共下水道事業・農業集落排水事業・個別排水処理事業の4事業とあわせて、令和4年度から地方公営企業法を適用し、1つの「下水道事業」として経営している。令和3年度は法適用前年度であったため、出納整理期間のない打切決算となっている。個別排水処理については、今後の整備予定はない。

①については、接続世帯が1世帯であり、使用料以外の収入（一般会計繰入金）に依存しなければならなかった状況である。

⑤については、打切り決算の影響で一時的に100%となったものであり、実際は使用料のみでは経費を回収できていない状況である。

⑥については、打切り決算の影響で汚水処理原価が減少したものであり、来年度移行はこれまで同様類似団体より高く推移する見込みである。

⑦については、接続戸数が1戸と少ない為、類似平均より低く推移している。今後の新規加入者が見込めないため現状維持で推移すると思われる。

⑧については、接続戸数が1戸と少ない為、平均値を下回っている。今後の新規加入者が見込めないため現状維持で推移すると思われる。

### 2. 老朽化の状況について

平成9年に整備を行っており、管渠等の老朽化はまだ深刻な状況には至っていない。

### 全体総括

令和3年4月に、農業集落排水（個別処理を含む）と公共下水道等の料金体系を統一し、人員制から従量制に変更した。

接続が1世帯であり、今後も新規加入の見込みがないことから一般会計繰入金が必要に成り立たず、また、使用料改定の検討は行いが経費の削減等といった経営の効率化には限界があると思われる。

耐用年数を迎える時期を目標に、特定地域生活排水処理事業への切り替えの検討が必要である。

なお、令和4年度以降は個別排水処理事業としての取扱いを廃止し、特定地域生活排水処理事業として経営比較分析を行う。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。